

新金

文明十四年
正月七日

歌合

文廟十四年，後七月。

左
待

梅香留袖

親王御方

後福原

右

荻香遊枕

前
開
白

右ノ申言ノ聲ノ病、いふやけり

右方人難申声韻病さへははれどこの病の

[illegible]

とく人能くはふふ才あるは

しるはしをうけつゝの
あやふさ

右の如くなることを祈り不慮災難之持守を
し海を渡る。

水碓杓

晋卿のきこえは、
源河のよむじやうつる

前大僧正道明

じしきもさういふやうに、
 右の申す青柳のうへに生え
 たる朱買臣の古半耳なまは
 たりとて、
 石乃石をさるゝ所の名を
 うけり。

事なりとてあはれむるなり申さる

[illegible]

春曙

天台座主尊應

右勝
秋夕

前大僧正增運

大さの積をつつと、あらすじをのりあわす。そのおる
右方申す曉や暖の夕ふへくはふ？ 共き一哉

とほはうらむいけぬ

きり申す平頭の前合乃例にて難申然又
たうなるもこの先き有申る哉

その親にさう申さる所のよし平頭存るは
いふやうに大いふいふ正話のり合り
りやうにいふに判をねらう様は
何れにさうし又詠うしのご正話のり合
り合乃有家のうまきとやあなをせうや
侍るは後半に判するふたうに何のきあはる
未井のしゆりやうなるまきとやあなをせうや
侍るはうまきとやあなをせうや侍る

四番

左勝 蓋花

入道右大臣

ひのふささきのうまきとやあなをせうや侍る

右 明月

前内大臣

ひのふささきのうまきとやあなをせうや侍る
右 明月 前内大臣
あなをせうや侍る

きり申す平頭の前合乃例にて難申然又
たうなるもこの先き有申る哉
その親にさう申さる所のよし平頭存るは
いふやうに大いふいふ正話のり合り
りやうにいふに判をねらう様は
何れにさうし又詠うしのご正話のり合
り合乃有家のうまきとやあなをせうや
侍るは後半に判するふたうに何のきあはる
未井のしゆりやうなるまきとやあなをせうや
侍るはうまきとやあなをせうや侍る

勝方よりいへるの曜の面々いふとやうに
まゝにうらゝ侍る

五番

龍 勝 暮春鶯

権大納言義尚

くもけふよりいふのまゝにうらゝ侍る

古 晚秋燕

権大納言教秀

表のつらさよりいふのまゝにうらゝ侍る

右 申云殊難なり

さういふ下りいふのまゝにうらゝ侍る

その右方へ全難なり

あやういふのまゝにうらゝ侍る

何のつらさよりいふのまゝにうらゝ侍る

六番

た 早苗多

権大納言高清

うらゝいふのまゝにうらゝ侍る

右 寒草サ

権大納言良

そのまゝにうらゝ侍る

右 同字の病侍る

さういふのまゝにうらゝ侍る

さういふのまゝにうらゝ侍る

七番

右歌謡のいふるにうらまへて雲の
いぬるうらまへて雲の
そのうらまへて雲の

左 雲間郭公 松奈使親長

入るうらまへて雲の
右勝 雪中詩人 汗珠束世

うはのうらまへて雲の
古申さしうらまへて雲の

そのうらまへて雲の
左のうらまへて雲の

うらまへて雲の

八番

右 時 照射 権大納言廣光

育るうらまへて雲の
右 細代 権中納言實隆

あつうらまへて雲の
右 時 照射

そのうらまへて雲の
四才のうらまへて雲の

たつうらまへて雲の

しつゝ才一才二才やいさつ結くまゝにけり今右初
の才字も懸てチつてさういふは疑てゝさもある
なりきも此例不う勝斗但才四才初おひきけり
持たしや

九番

左 勝 懐蚊遣火

系議永継

きくふ結るやのふまへつゝさういふ有明のさ

右 深夜埋火

系議政為

うはまのさういふ國のさういふゆゑ

右 申さるゝ結るや

さゆいふ飛落の祥より

右 申さるゝ又めつゝさういふ右為飛落祥

さういふ申さる願風情のさういふわきま

丁 何事

丁番

左 勝 貴賤復夜

系議基綱

さういふ申さるの所後さういふ神い

右 都鄙歳暮

系議智為廣

年波いふさういふあけはさういふさういふ山

右 申さるのさういふさういふさういふ

さういふ申さる一但果さるの題いふさういふ

丁 色のねいふさういふさういふ

さういふの字のさういふさういふさういふ

さういふのさういふさういふさういふ

何ぞの勝どし勝どし

十三番

きお 寄山急 政茂

しるしめふおん入あゆむおまふしるしめふおん入あゆむ

右 山路旅行 玄就

きふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右ゆきおんふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

すけつ

たす申ふ平頭は病の外殊なふふふふふふふふふふふふ

七い流波根石守津山平ふふふふふふふふふふふふふふ

十四番

た 寄山急 宗伊

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右 草書貼夢 頼行

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右申一首乃群をうきふふふふふふふふふふふふふふ

た申ふ強ふふ難申ふ

七いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

十五番

可 存 鏡 也

明 鏡

のりまゝの面を、
石 狩 屋 主 光 清

入道大僧正
光 清

無 常 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

光 清 寺 住 持 光 清

110x
647
17
16

